調 査 速 報

国内新車販売統計（2016年12月）

内需の増勢は 2017 年度に入り一服する見込み：輸出下押しリスクもあり、国内生産の楽観見通しは禁物

主任研究員
深尾 三四郎
０４５－２２５－２３７５
fukao@yokohama-ri.co.jp

要 約

- 16年国内新車販売台数は500万台割れ。後半に盛り上がった買替え需要は新年度に入り一服する公算。
- 健全な在庫水準が続き、生産も堅調に推移しているが、17年は輸出の減速リスクにも要警戒。
- 中古車輸出の持ち直し続くが、17年はミャンマー市場が「消滅」。スリランカが回復するかに要注目。

１．12 月の国内新車販売台数は季節調整済年率換算値で 569 万台と５か月連続の 500 万台超え

１月５日発表の 2016 年 12 月の国内新車販売台数（登録車＋軽自動車、貨物車含む）は前年同月比 7.6%増となり、また、季調済年率換算値(X-12-ARIMA にて当社試算、以下 SAAR)でみた 12 月の販売台数も前月比 3.4%増の 569 万台と５か月連続で年率 500 万台超えとなって、持ち直しの動きが続いている（図表１）。この増勢の背景には、車検更新車両台数が増加し、買い替え需要が盛り上がっていることが挙げられる（図表２）。継続検査件数（車検）は８月以降、前年超えが続き、３か月後方移動平均値でみた車検の季調値は増加トレンドが続いている。とりわけ、初回（３年目）車検更新車両の台数が大きく（図表３）、これは一部メーカーの基幹モデルがちょうど車検更新期を迎えていることが背景にある。４～12 月の新車販売台数の平均 SAAR は 508 万台と 15 年度実績（494 万台）を上回っている。

内訳をみると、12 月の乗用車（登録車＋軽）販売台数の SAAR は前月比 3.8%増の 478 万台となり（図表４）、このうち登録乗用車は同 2.7%増の 321 万台と増加し（図表５）、軽乗用車の販売台数（SAAR）も前月比 6.1%増の 156 万台となった（図表６）。貨物車（普通＋小型トラック）販売台数の 12 月の SAAR も前月比 11.3%増の 47.7 万台と堅調であった（図表７）。

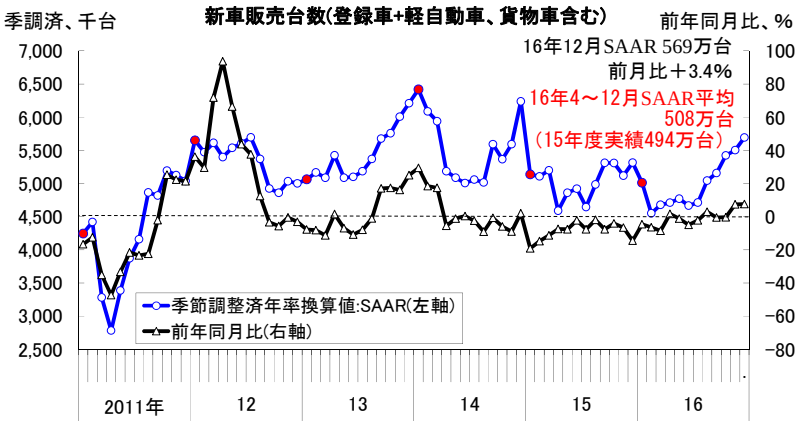
16 年（暦年）の国内新車販売台数は前年比 1.5%減の 497 万台と 500 万台を割り込み、震災後の５年間で最低となった（図表８）。内訳は、４ページの図表９～13 で示すが、とりわけ、軽自動車の販売不振が大きく響き、同セグメントの市場シェアが２年連続の低下で、６年ぶりに 35%を割り込み、軽から登録車への需要シフトが進んだことが特徴的である。

鉱工業指数をみると、11 月の生産は３か月連続で上昇した。国内販売と輸出の増加（後述）が増産の背景にある。今後、米国を中心に海外主要市場向けの輸出減速が国内生産への下押し圧力となるリスクは依然として残るが、今年度いっぱいは堅調な買い替え需要を背景とした国内販売の持ち直しを下支えに、生産は堅調に推移するものとみられる。

もっとも、足元で国内販売は堅調に推移しているものの、内需回復の背景にある車検台数の盛り上がりは 17 年４月頃から一巡すると推測され（図表３）、17 年度の国内新車市場を取り巻く環境は楽観できる状況ではないと考える。また、米国を中心に海外市場の減速懸念が高まり、輸出に関しても下押し圧力が強まることから、17 年度の国内生産台数見通しに関して、自動車関連企業からは慎重な声が聞かれ始めよう。

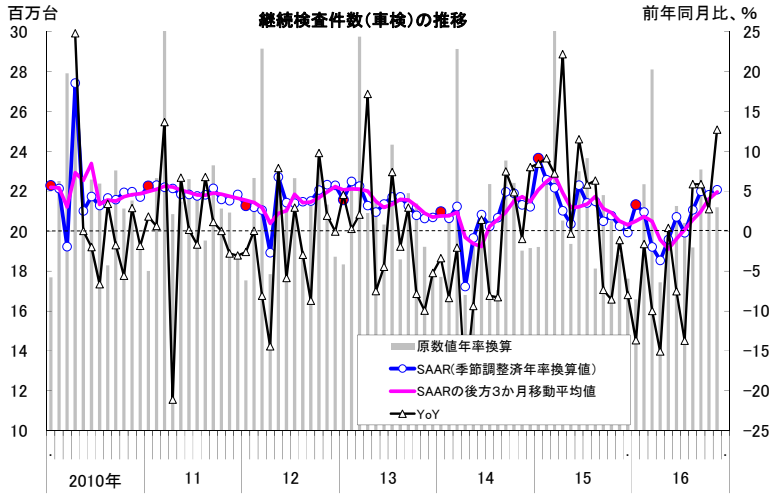
中古乗用車の 11 月の輸出台数（SAAR）は３か月連続で増加した。輸出金額は前年比２桁%の減少が９か月も続いており、中古車輸出市場を取り巻く環境は引き続き厳しいが、台数面で持ち直しの動きが出始めていることは明るい材料である。しかし、ここにきて主要市場のひとつであるミャンマーにて、17 年１月から右ハンドル中古車の輸入が原則禁止となったことが決まり、中古車輸出市場は 17 年も苦しい年となりそうだ。新興国の景気不振が続き、全般的に輸出環境が厳しいなか、足元で在庫補充の動きがみられるという声が聞かれるスリランカが、17 年の中古輸出市場の数少ない回復市場となるかに要注目である。

図表１　国内新車販売（SAAR）は６か月連続の増加



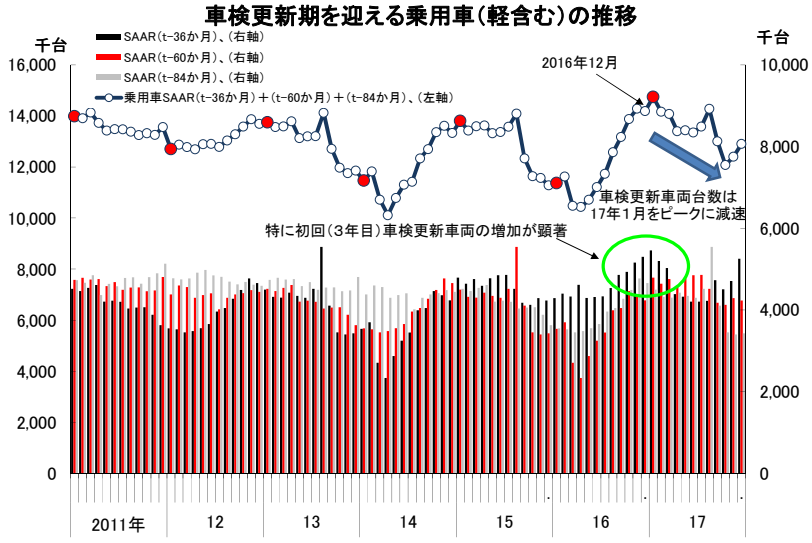
注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2：SAARはセンサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所：日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会より作成

図表２　継続検査件数（車検）の増加基調が続く



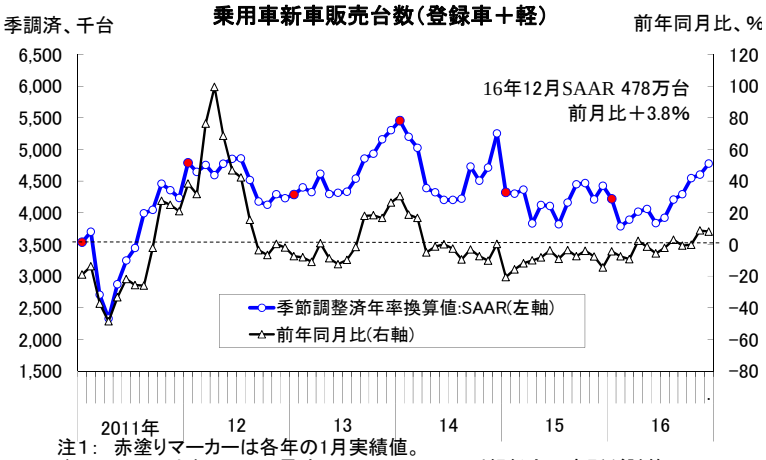
注1：赤いマーカーは各年の1月実績値。
注2：SAARはX-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が算出。
出所：国土交通省のデータを基に作成

図表３　車検更新車両台数の盛り上がりは 17 年度に入ると一服すると推察



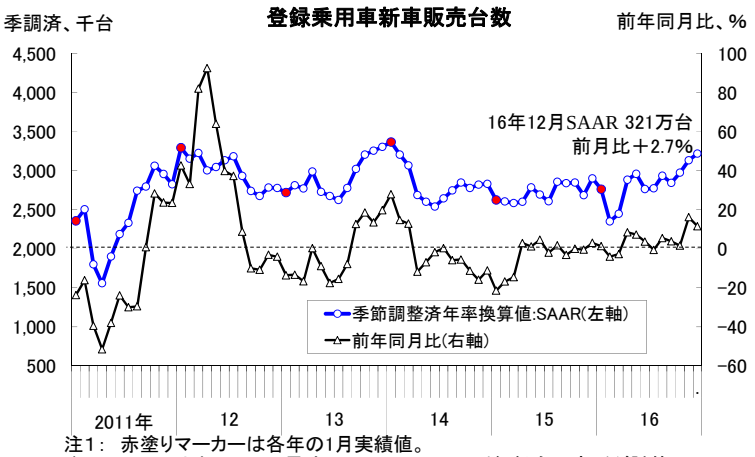
注1：赤いマーカーは各年の1月実績値。
注2：SAARはX-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が算出。
出所：日本自動車販売協会連合会のデータを基に作成

図表４　乗用車販売(SAAR)は６か月連続の増加



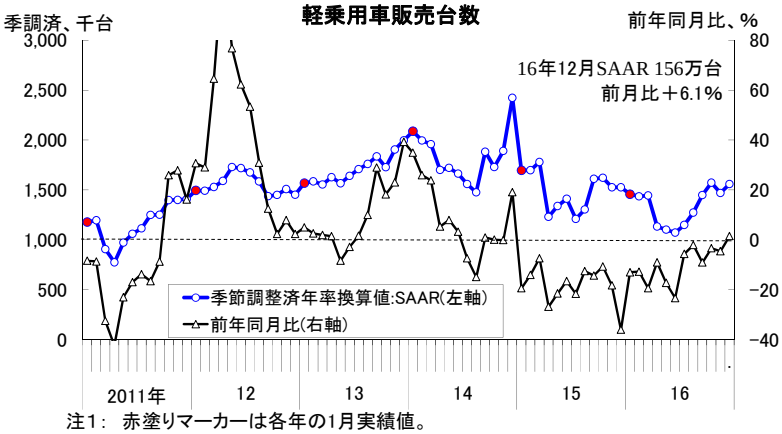
注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所：日本自動車販売協会連合会及び全国軽自動車協会連合会より作成

図表５　登録乗用車販売の伸長が続く



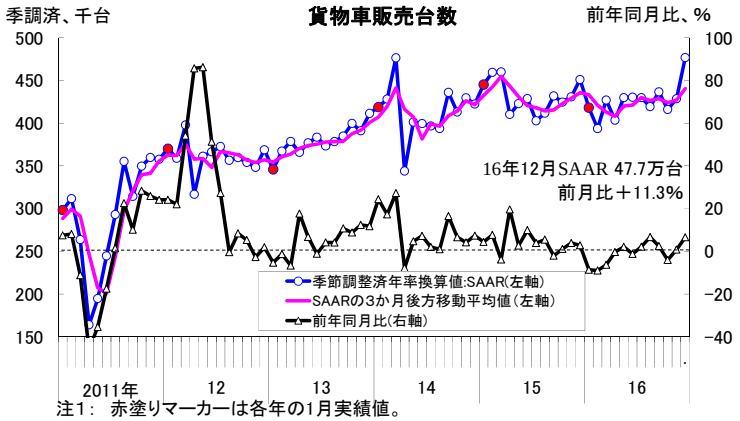
注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所：日本自動車販売協会連合会より作成

図表６　12 月の軽乗用車販売は前月比増加に転じた



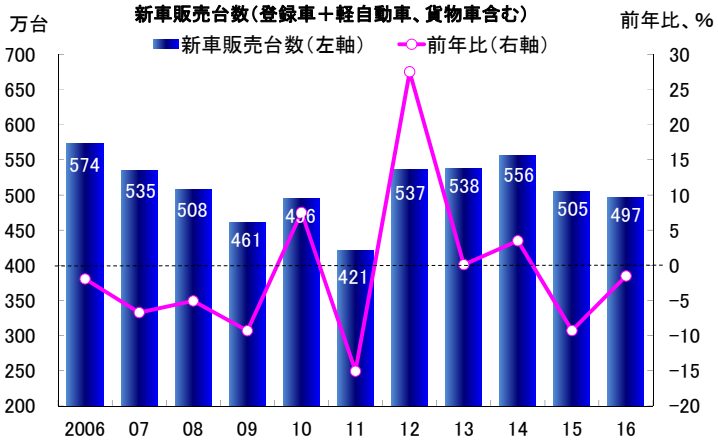
注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所：全国軽自動車協会連合会より作成

図表７　貨物車販売も 12 月は大幅増



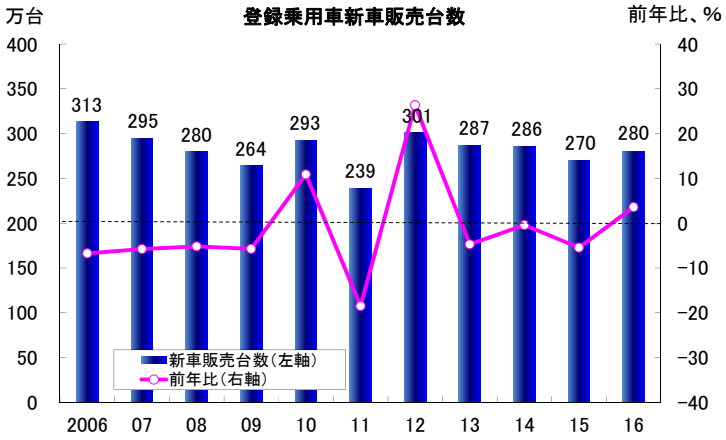
注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所：日本自動車販売協会連合会より作成

図表８　16 年新車販売は前年比 1.5%減の 497 万台



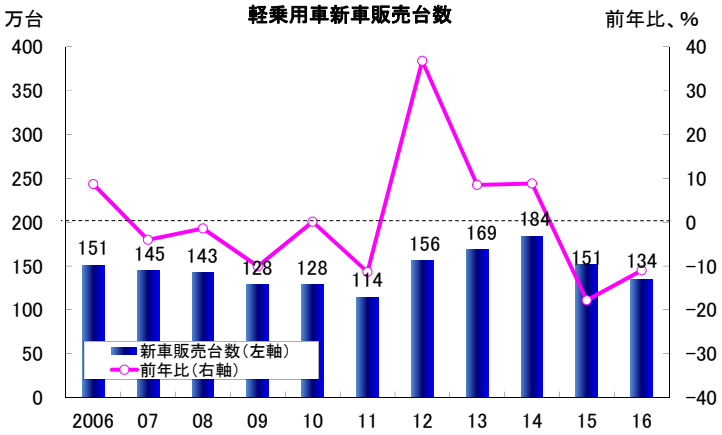
出所：日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会のデータより作成

図表９　登録乗用車は同 3.6%増と４年ぶりの増加



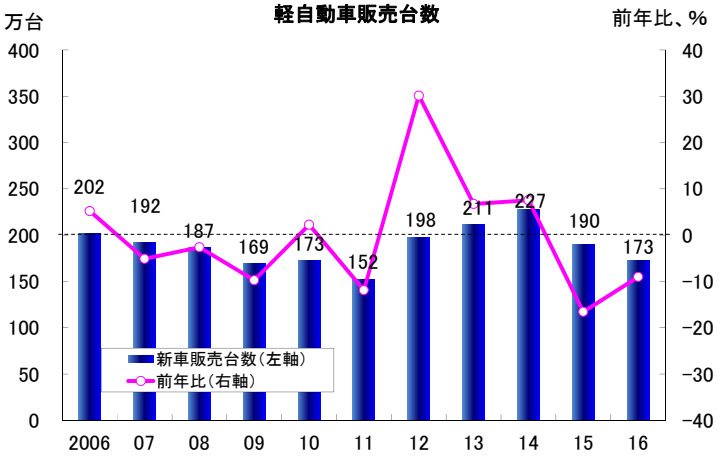
出所：日本自動車販売協会連合会のデータより作成

図表 10　軽乗用車は同 11.0%減の 134 万台



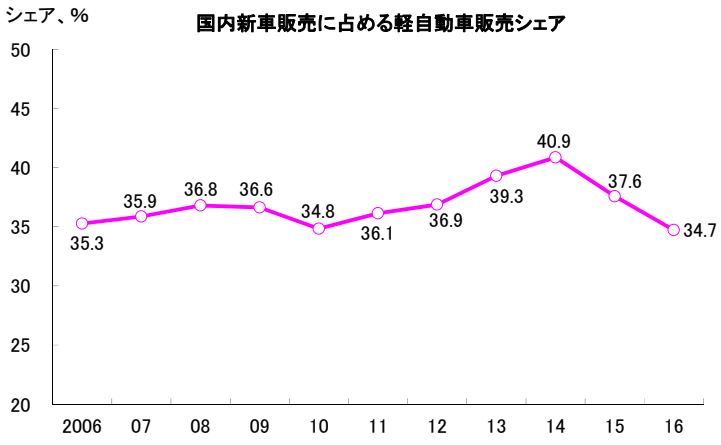
出所：全国軽自動車協会連合会のデータより作成

図表 11　軽自動車は同 9.0%減の 173 万台



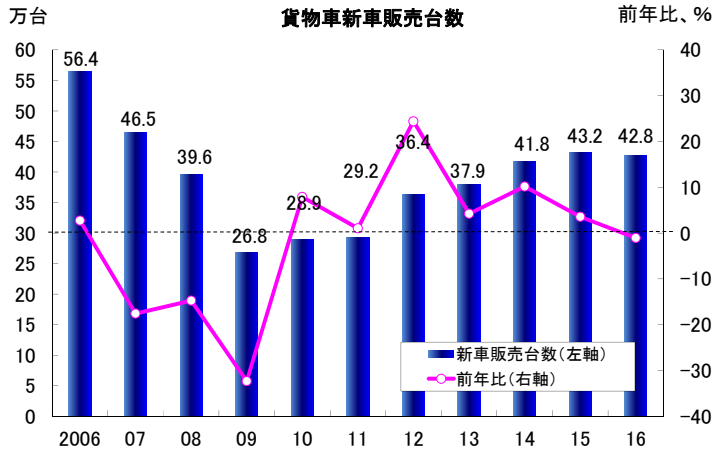
出所：全国軽自動車協会連合会のデータより作成

図表 12　軽シェアが２年連続の低下で 35%割れ



出所：日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会のデータより作成

図表 13　貨物車・バスは同 1.1%減の 42.8 万台



出所：日本自動車販売協会連合会のデータより作成

２．11 月の乗用車生産指数は３か月連続の上昇

鉱工業指数（速報値）を見ると、11 月の乗用車生産は３か月連続の上昇となったが、出荷が堅調だったため、在庫水準は２か月連続で低下した。在庫循環図上では(注)、10 月に続き 11 月も乗用車生産は「意図せざる在庫減局面」にあり、在庫は健全な水準を維持している（図表 14）。内需拡大や輸出の増加（後述）が増産を後押ししている。米国を中心とした海外での自動車需要の減速懸念が払しょくできないことから、乗用車生産に対する下方圧力が高まるリスクは依然として残るが、在庫水準が健全である中、買い替え需要の盛り上がりを背景とした国内販売の持ち直しが続くため、目先、生産は堅調に推移すると考える。

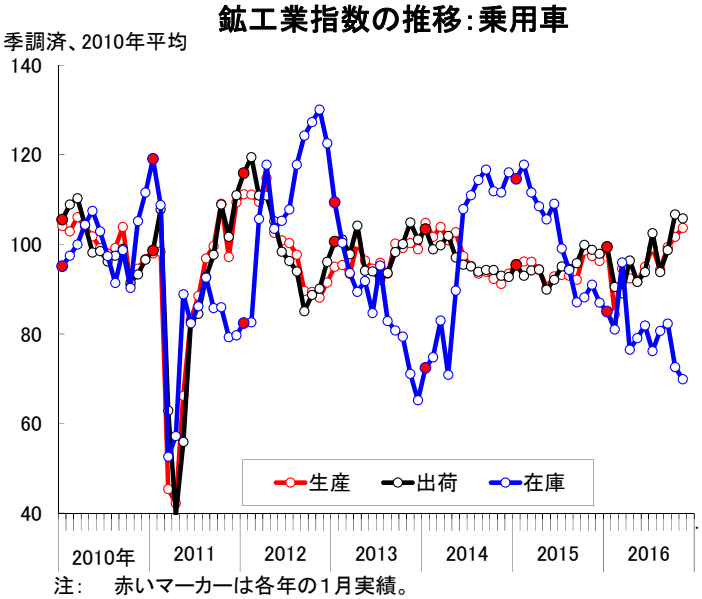
図表 15～17 では鉱工業指数から、普通、小型、軽乗用車別の各指数（生産、出荷、在庫）の推移と在庫循環図を示している。11 月の普通乗用車の在庫（季調値）は増加したが、生産活動は「在庫積み増し局面」にあり、メーカーは需要増加に備え在庫を積極的に積み増す状況となっている。

大幅な出荷増加を背景に、11 月の小型乗用車の在庫は大きく減少した。生産活動は「在庫調整局面」から「意図せざる在庫減局面」に移行し、在庫水準が健全化したことで、減産圧力が緩和した。

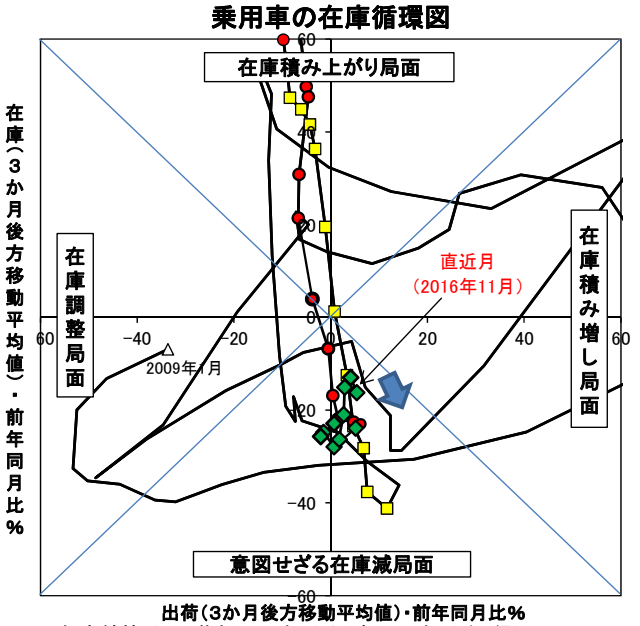
軽乗用車は販売減少に併せて生産が抑制されたため、在庫は２か月連続で減少した。生産は「意図せざる在庫減局面」に止まっており、在庫水準は適正である。

（注）新モデルが発売されるタイミングで乗用車の出荷と在庫は大きく振れるため、各月の出荷・在庫（原数値）を３か月後方移動平均で均してから前年同月比と比較し、それぞれ変化率を X-軸（出荷）と Y-軸（在庫）でプロットしている。

図表 14　11 月の生産指数は３か月連続の上昇

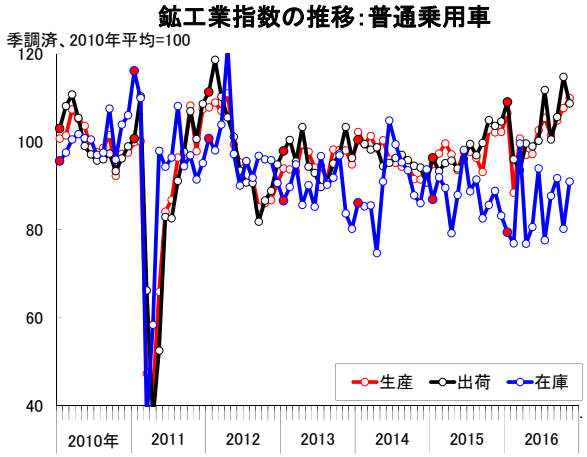


注：　赤いマーカーは各年の１月実績。
出所：経済産業省「鉱工業指数」より浜銀総合研究所が作成

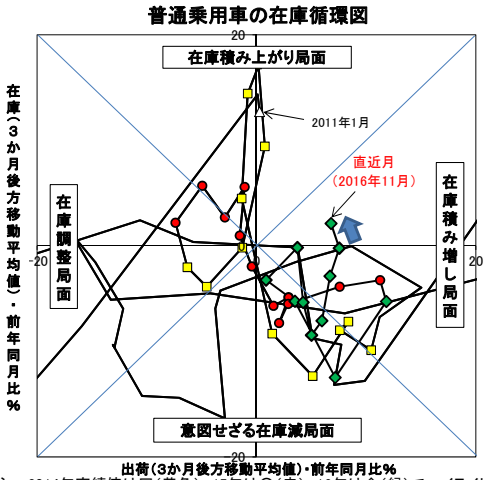


注：　2014年実績値は□（黄色）、15年は○（赤）、16年は◇（緑）でハイライト。
出所：経済産業省「鉱工業指数」を基に浜銀総合研究所が作成

図表 15　普通乗用車の生産は「在庫積み増し局面」が続く

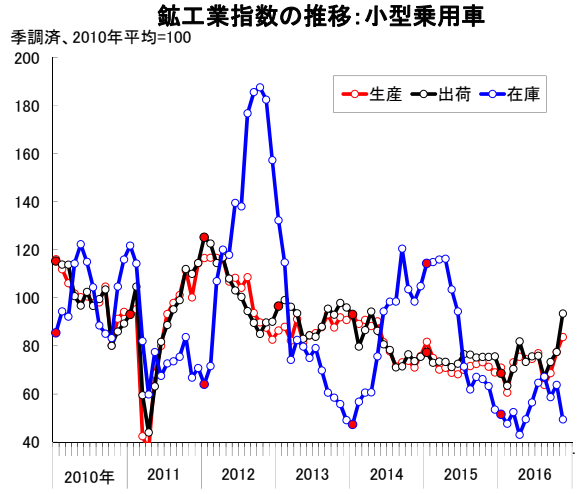


注:　赤いマーカーは各年の1月実績。
出所: 経済産業省「鉱工業指数」より浜銀総合研究所が作成

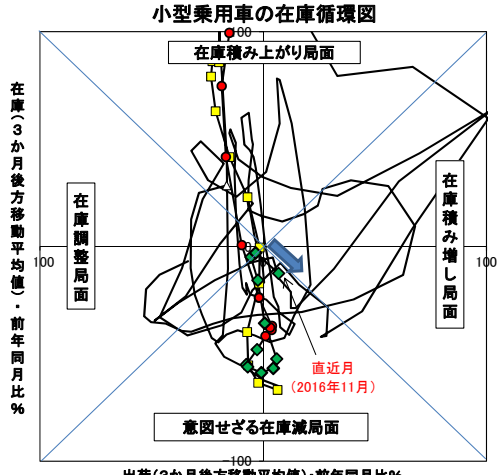


注:　2014年実績値は□(黄色)、15年は○(赤)、16年は◇(緑)でハイライト。
出所:経済産業省「鉱工業指数」を基に浜銀総合研究所が作成

図表 16　小型乗用車は「在庫調整局面」から「意図せざる在庫減局面」へ移行



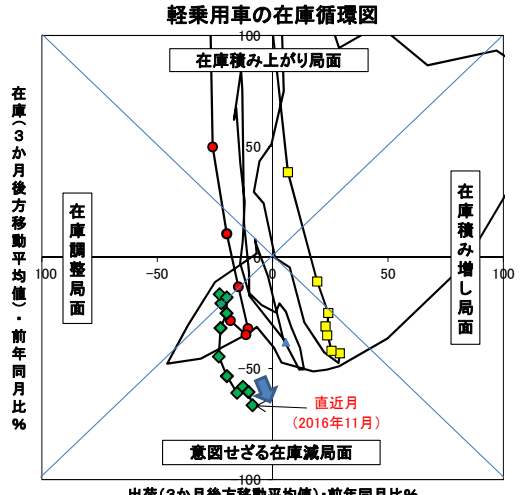
注:　赤いマーカーは各年の1月実績。
出所: 経済産業省「鉱工業指数」より浜銀総合研究所が作成



注:　2014年実績値は□(黄色)、15年は○(赤)、16年は◇(緑)でハイライト。
出所:経済産業省「鉱工業指数」を基に浜銀総合研究所が作成

図表 17　軽乗用車の在庫減少が続く:「意図せざる在庫減局面」が続き、在庫水準は健全

注:　赤いマーカーは各年の1月実績。
出所: 経済産業省「鉱工業指数」より浜銀総合研究所が作成



注:　2014年実績値は□(黄色)、15年は○(赤)、16年は◇(緑)でハイライト。
出所:経済産業省「鉱工業指数」を基に浜銀総合研究所が作成

３．11 月新車乗用車輸出（季調値）は前月比ほぼフラット

12 月 27 日に公表された 11 月の乗用車輸出台数(軽乗用車と中古車を除く)は前年同月比 3.8%増と 18 か月連続で前年超えとなったが、SAAR は前月比 0.1%減の 429 万台とほぼ前月並みに落ち着いた(図表 18)。ここのところ大きな幅で一進一退が続いているが、３か月後方移動平均値でみたトレンドは緩やかに持ち直している。主要仕向地別でみると（図表 19)、米国向け輸出の堅調が続き、中国向け輸出も２か月連続の増加となったが、欧州向けや中近東向けの輸出減少が相殺したかたちだ。

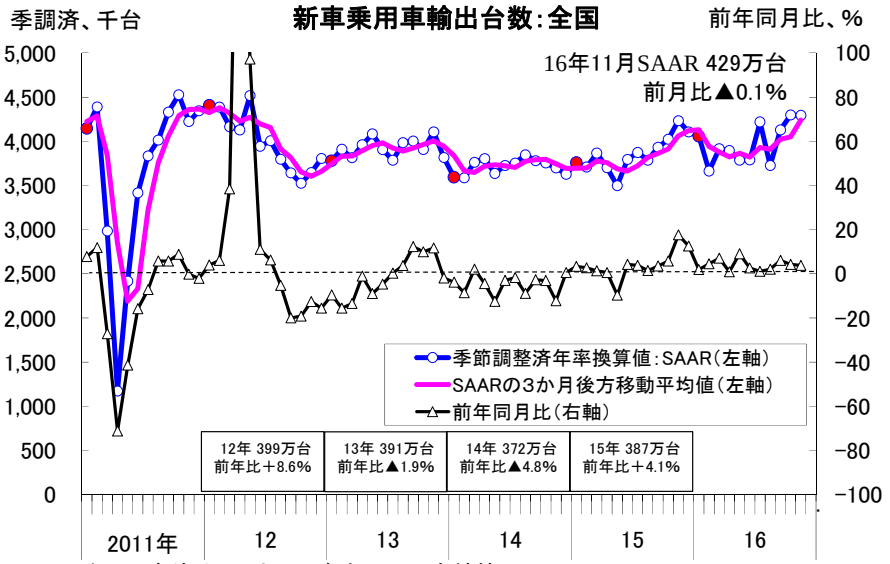
日本にとって最大の輸出先である米国の新車販売台数（SAAR）は、11 月に前月比 0.7%増の 1,816 万台（当社試算）となった（図表 20)。ここ３か月、需要は伸び続けているが、メーカー各社による販売奨励金の積み増しが続いていることから、脆弱性の高い販売増加が続いていると言えよう。長らく拡大基調にあった米国新車市場は、2017 年に「息切れ」する可能性が高く、引き続き、同国向けの輸出が今後一段と切り上がって、輸出の大きな押し上げ要因になると期待するのは難しい状況と考える。

米国に次ぐ主要仕向け地である欧州では、11 月の販売台数（SAAR）は前月比 2.2%増と増加したが、３か月後方移動平均値でみたトレンドには頭打ち感がある（図表 21)。欧州の新車販売は 16 年に入ってから浮揚感に欠ける重い展開が続いており、同地域向けの輸出も今後更に上向いていくと予想するのは難しい。

最後に、中国の 11 月の乗用車小売台数は７か月連続で前年同月比２桁増と堅調で、流通在庫は適正水準にある（図表 22)。乗用車販売台数（生産に近い工場出荷ベース）に目を向けると、11 月の SAAR は前月比 0.7%増となり、３か月後方移動平均値で見る増加基調は続いている（図表 23)。中国の内需は小型車減税を背景に堅調に推移している。もっとも、昨年末に終了予定の同減税措置が１年間延長されることが決まったが、延長決定前に駆け込み需要が発生したことや、減税幅が半分にされることから、駆け込み需要の反動減及び実質増税が逆風となり、内需が減少するリスクは大きい。従って、中国向けの輸出に関しても楽観できる状況ではない。

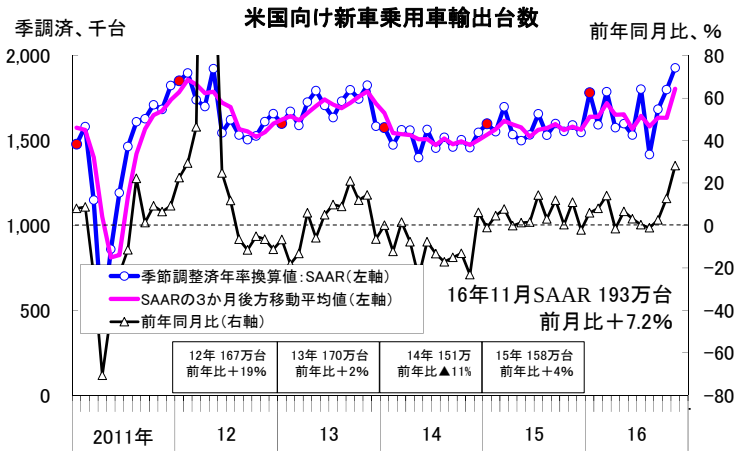
上記のように、米国および欧州の新車市場の減速及び中国での内需減少懸念から、今後、日本からの自動車輸出に対し下方圧力が高まる可能性がある点には引き続き要警戒である。

図表 18　11 月乗用車輸出（SAAR）は前月並み

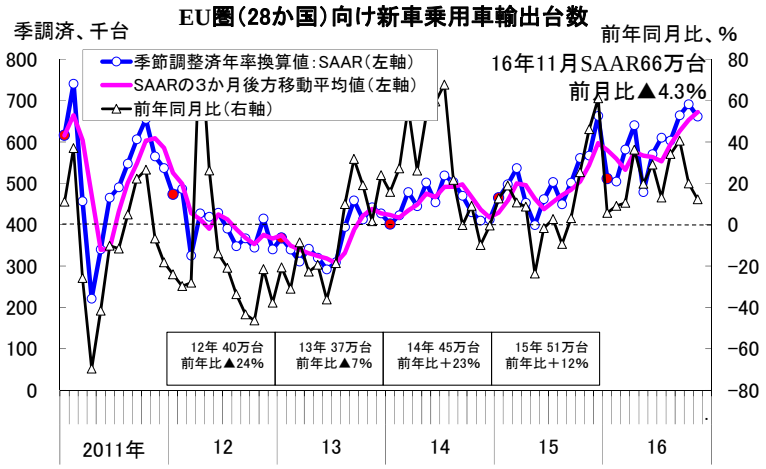


注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2：ノックダウンを除く。
注3：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所：財務省「貿易統計」より作成

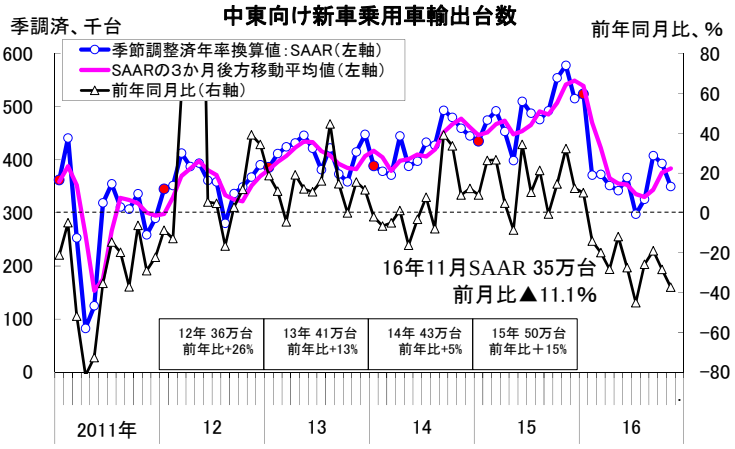
図表 19　米中向け輸出増加も欧州・中近東向けの減少が相殺



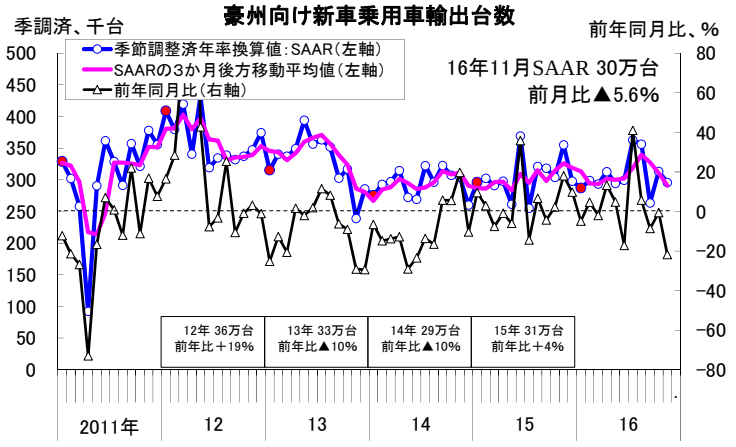
注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2：ノックダウンを除く。
注3：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所：財務省「貿易統計」より作成



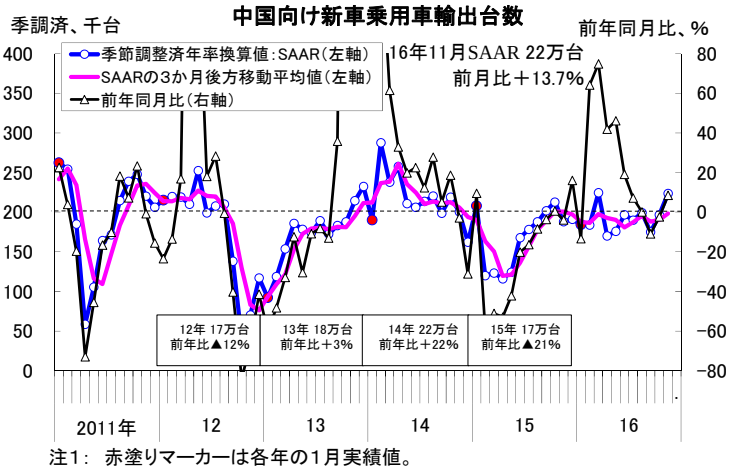
注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2：ノックダウンを除く。
注3：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所：財務省「貿易統計」より作成



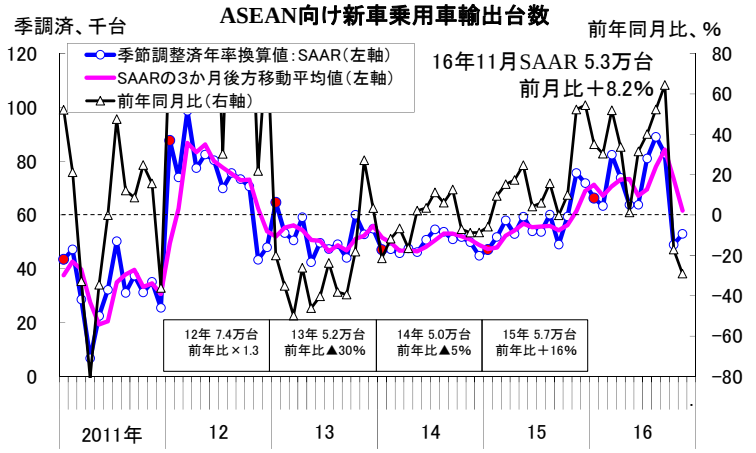
注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2：ノックダウンを除く。
注3：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所：財務省「貿易統計」より作成



注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2：ノックダウンを除く。
注3：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所：財務省「貿易統計」より作成

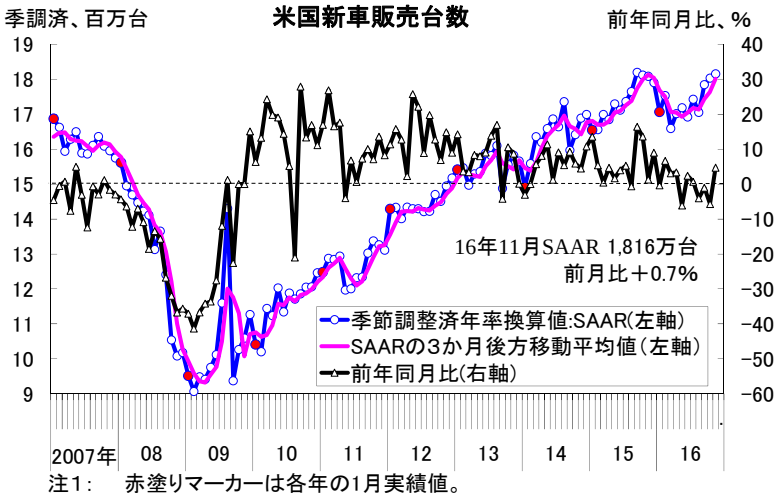


注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2：ノックダウンを除く。
注3：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所：財務省「貿易統計」より作成



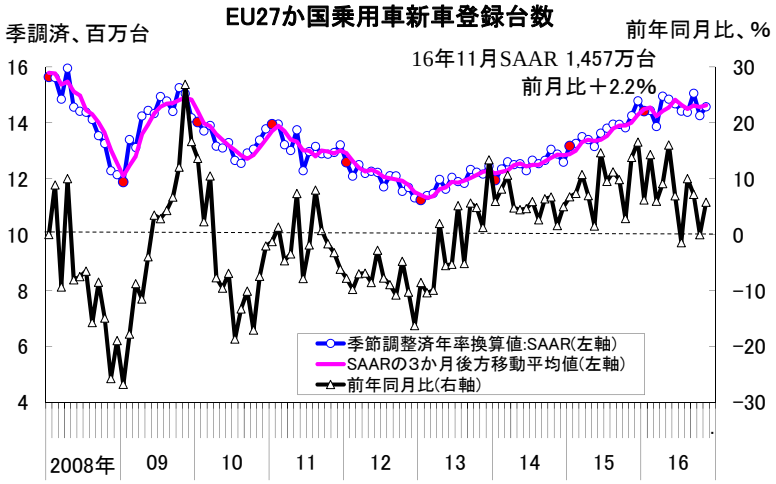
注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2：ノックダウンを除く。
注3：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所：財務省「貿易統計」より作成

図表 20　米国新車販売は３か月連続の増加



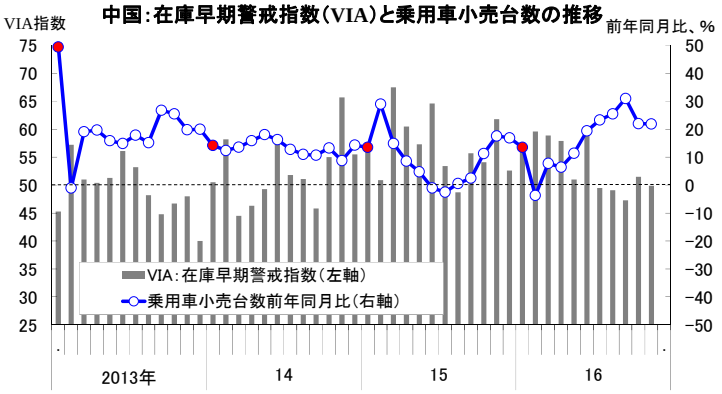
注1：　赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2：　SAARは米国センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所：　Autodata、Bloombergのデータより作成

図表 21　欧州の販売は一進一退で停滞感強い



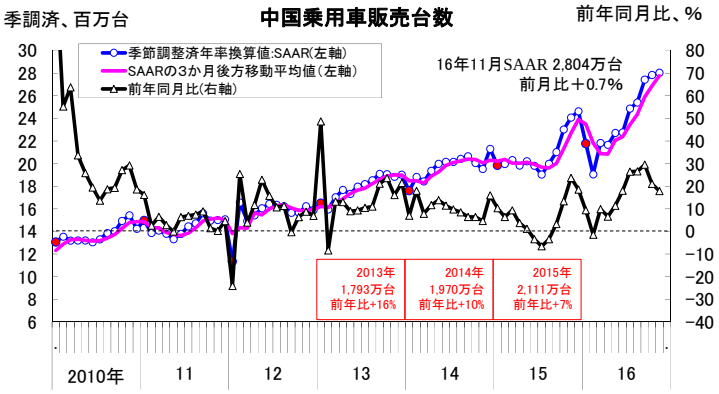
注1：　赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2：　SAARは米国センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所：欧州自動車工業会（ACEA）のデータより作成

図表 22　中国乗用車小売販売は堅調：在庫水準は適正



注1：　赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2：　乗用車小売台数は微型バン（軽自動車バン）を除く。
注3：　VIAは50を下回る場合がディーラーでの在庫水準が適正、50を上回る場合が在庫過多。
出所：中国汽車流通協会（CADA）、全国乗用車市場信息連席会（CPCA）データより浜銀総合研究所作成

図表 23　中国乗用車販売は増加基調が続く



注1：　赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2：　工場出荷ベース。
注3：　SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所：中国汽車工業協会（CAAM）のデータより作成

４．ミャンマー市場の「消滅」が決まり 2017 年も苦しい年に：スリランカ向け輸出回復が浮上のカギに

国内流通業者に注目されている中古乗用車の輸出市場に目を向けると、11 月の中古車輸出台数は前年同月比 0.5%増と９か月ぶりに前年超えとなり、SAAR も前月比 5.4%増の 101 万台と３か月連続の増加となった。トレンドをみると、３か月後方移動平均値は９月を底に上向いてきており、長らく底の見えない状況が続いていた中古車輸出台数に回復の兆しが出始めている（図表 24）。同月の中古乗用車の輸出金額は前年同月比 18.3%減と９か月連続の大幅減となり、中古車輸出市場を取り巻く環境は引き続き厳しい状況が続いているが（図表 25）、台数面で持ち直しの動きが続いていることは明るい材料である。

しかし、ここにきて中古車輸出市場に大きな逆風となる材料が現れた。主要仕向け地のひとつであるミャンマーにて、同国政府が 17 年１月より右ハンドル車の輸入を原則禁じる方針を発表したのである。日本からミャンマーへ輸出される中古乗用車の台数はおよそ６万台（16 年１～11 月 SAAR 平均）となっており、中古乗用車輸出市場全体（同期間 SAAR 平均 95 万台）の約６％と無視できない規模である。ミャンマー向け中古車輸出市場がほぼ「消滅」する方向であり、2017 年の中古車輸出市場に大きな逆風となる点には要注意である。

話を 11 月の統計に戻す。11 月の中古乗用車輸出台数を仕向地別で見ると、ニュージーランド向けとアラブ首長国連邦（UAE）向け、そしてミャンマー向けの輸出が増加した（図表 26）。輸出価格に目を向けると、全世界向け中古乗用車の FOB 平均価格は軟調に推移している。単価の低い UAE 向けの輸出構成比が上昇したことが、FOB 平均価格の下落に繋がる要因のひとつとなったと考えられる。台数ベースで最大の仕向先であるアフリカ地域向け中古乗用車の FOB 平均価格は７月（37.0 万円）に大きく値崩れしたが、その後、平均価格は底這い推移となっており、収益性を犠牲にした激しい価格競争が収まっている様子は統計からは見受けられない（図表 27）。

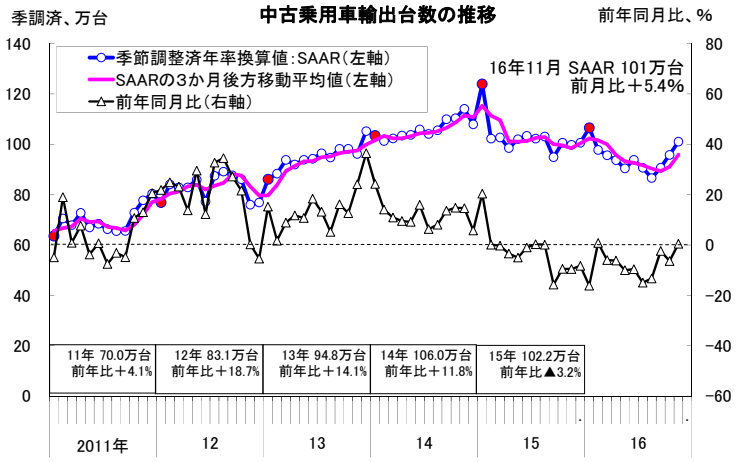
中古車流通業者の間で高成長市場として注目されてきたスリランカ向けの 11 月の輸出台数（SAAR）は前月比 17.1%減の 1.8 万台となり、一進一退が続いている（図表 28）。とりわけ、同国固有で人気が高い軽乗用車の日本からの輸出台数は、横ばい推移で重い展開が続いていることに加え、11 月は FOB 平均単価が大幅に下落し、苦しい状況である（図表 29）。もっとも、トランプ米新大統領の就任が決まったことで円安が進行している足元では、同国向け輸出に持ち直しの動きがあるという業者からの声が聞かれており、長らく輸入を抑えてきたスリランカ側で在庫補充の動きが出始めていることが考えられる。

上記のミャンマー市場の消滅により、中古車輸出市場は 2017 年も前年割れの苦しい年を迎える可能性が高いが、台数規模は大きくないものの、高単価・高収益市場であるスリランカ向け中古車輸出が回復するとなれば、業界関係者にとって数少ない拠り所となろう。今年の中古車輸出市場の回復の鍵はスリランカが握っていると考える。前述したように、国内新車市場は 17 年度に入ってから買い替え需要が減速するリスクが高まる。一方で、大手軽自動車メーカーによる基幹モデルのフルモデルチェンジが行われる見込みであり、スリランカ業者からの同モデルへの関心は極めて強い。軽乗用車の高年式中古車（特に型式 DAA-のハイブリッド車）の輸出が盛り上がるかどうかに要注目である。

最後に、スリランカに代わって高単価車両の輸出先として期待されているシンガポール向けの 11 月の輸出台数（SAAR）は、前月比 4.1%減の 1.4 万台と５か月連続の減少となった（図表 30）。同国では自動車所有権証（COE：Certificate of Entitlement）の発行数が増加しており、自動車の買い替え需要が盛り上がっていたが(注)、マクロ景気の悪化が足かせとなり、減少トレンドが続いている。

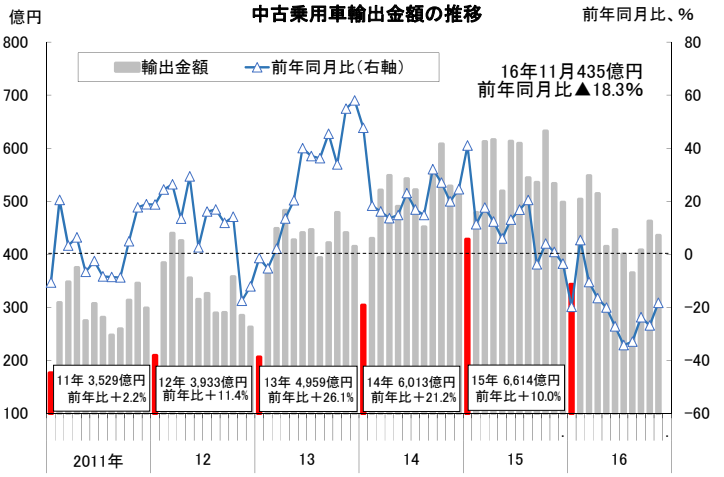
（注）COE の詳細及び買い替え需要発生との関係性は、下記リンク先の「国内新車販売統計（2016 年２月）」ページ 10～11 を参照されたい。https://www.yokohama-ri.co.jp/html/report/pdf/shinsha1602.pdf

図表 24　中古乗用車輸出台数（SAAR）は３か月連続増



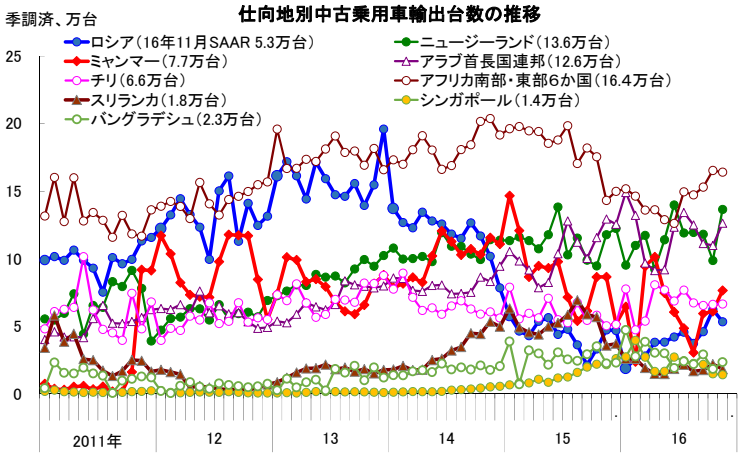
注1：　赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2：　SAARは米国センサス局法X-12-ARIMAを用いて浜銀総合研究所が試算。
出所：財務省「貿易統計」より作成

図表 25　輸出金額は８か月連続の前年割れ



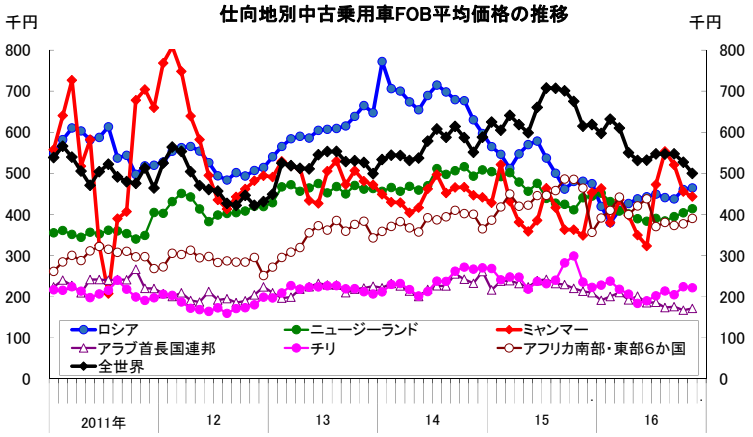
注：　赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
出所：財務省「貿易統計」より浜銀総合研究所が作成

図表 26　ミャンマー、NZ、UAE 向け輸出が伸長



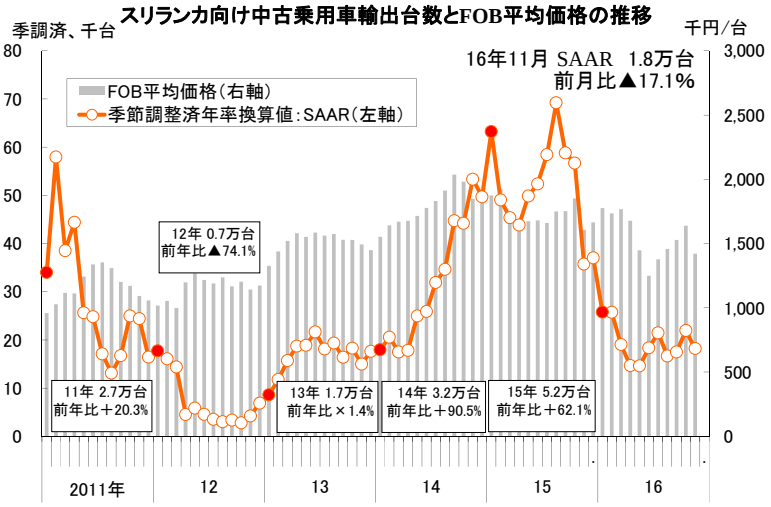
注：　アフリカ南部3か国：南アフリカ、モザンビーク、ザンビア、東部3か国：ケニア、タンザニア、ウガンダ。
注：　SAARは米国センサス局法X-12-ARIMAを用いて浜銀総合研究所が試算。
出所：財務省「貿易統計」より作成

図表 27　中古乗用車の単価下落が続く



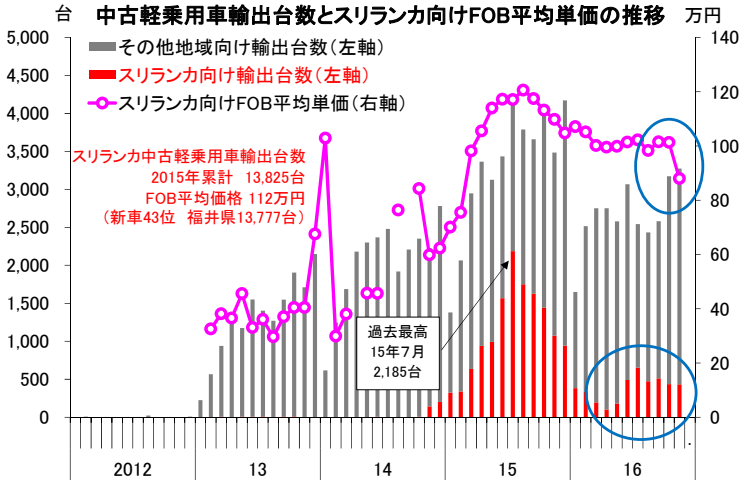
注1：　アフリカ南部3か国：南アフリカ、モザンビーク、ザンビア、東部3か国：ケニア、タンザニア、ウガンダ。
注2：　FOB平均価格は輸出金額を輸出数量で除した。
出所：財務省「貿易統計」より浜銀総合研究所が作成

図表 28　スリランカ向けは低位横ばいが続く



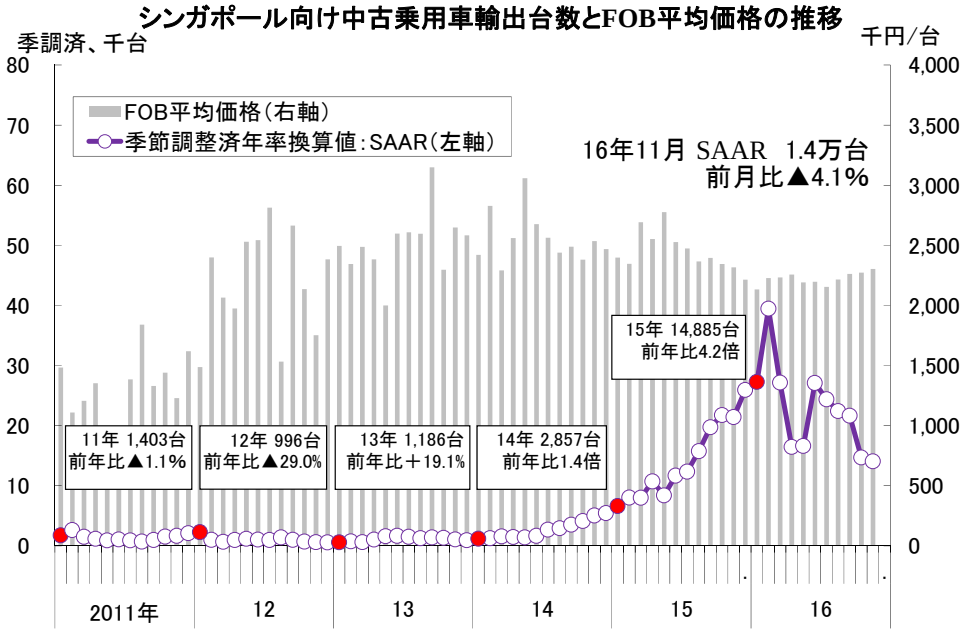
注1：　赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2：　SAARは米国センサス局法X-12-ARIMAを用いて浜銀総合研究所が試算。
出所：財務省「貿易統計」より作成

図表 29　スリランカ向け中古軽乗用車輸出は軟調推移



注1：　スリランカ向けFOB平均単価が計算できない月は輸出台数が0台であった。
出所：財務省「貿易統計」を基に浜銀総合研究所が作成

図表 30　シンガポール向け輸出（SAAR）は５か月連続の減少



注1：　赤塗りマーカーは各年の１月実績値。
注2：　SAARは米国センサス局法X-12-ARIMAを用いて浜銀総合研究所が試算。
出所：　財務省「貿易統計」より作成

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。